

令和4年度理論政策更新研修の開催

令和4年度の理論政策更新研修は、令和4年9月3日（土）8:20～12:30に、福井商工会議所ビル・コンベンションホールにて、会場出席69名・オンライン出席46名の計115名の受講者のもと開催された。今回も新型コロナウイルス感染症防止のため、会場入り口での検温を始め、受講席間に飛沫防止のアクリル板の設置し、昨年と同様にリモート開催も行った。

【研修内容】

1. 「福井県の経済雇用情勢および主な企業支援について」



福井県産業労働部副部長 大塚智樹氏

…大塚智樹副部長より、福井県の経済雇用情勢および主な企業支援について紹介された。県内の景況感については、「ふくい街角景気速報」7月調査の現状判断DIは45.6となり、前月と比べ4.4ポイント低下したこと、

先行き判断DIは40.1となり、8.1ポイントも低下したとし、製造業・サービス業のいずれも原材料の高騰が足を引っ張っていると解説された。

コロナ禍に対応した新型コロナ関連資金・いわゆる「ゼロゼロ融資」（無利子・無担保）については返済開始時期を迎えているが、融資実行額は1,682億円とリーマンショック時の880億円と比較して約2倍となったことで、いかに今回の不況が大きいものであったかが報告された。また、原油・原材料高対策の制度融資として、令和4年6月補正予算で55億円が計上されたこと、同事業継続への支援

として21億円が計上されたとした。さらに、原油・原材料高騰に対応した経営体質への転換を後押しするため、国のものづくり補助金のグリーン枠に上乗せして、炭素排出量の削減効果の高い生産設備の導入を促進するため、省エネ設備・電気自動車等導入企業支援事業・2億8,900万円が計上されたことが報告された。

2. 事例研究「中小企業のデジタル化支援」

「フィッシュパスが変える！日本の川と地方の未来」

株式会社フィッシュパス 代表取締役社長 西村成弘氏



...西村成弘社長から、川釣りの遊漁券をオンラインで購入できるスマートフォン向けアプリという新領域のビジネスモデルが紹介された。内水面漁協の収入は漁券販売が大きい釣りが客の9割は県外客で券の購入場所が分からず

未購入者も多かった。釣り客を監視する業務も非効率で、それらを解決するDX化をしようと遊漁券販売アプリを開発した経過が語られた。結婚を機に帰郷、故郷の竹田川に釣りに行くと川の変容に愕然とする。原因を探るため県立大大学院に入学。研究で全国の川が抱える構造的な問題を探ると、稚魚を放流し、河川環境を管理する全国の内水面漁協は、担い手不足と経営悪化に悩んでいることがわかり、情報通信技術で漁協の課題を解決し、人と川の関係性も変えたいと開発に取り組んだ。しかし、相手は内水面漁協である。組合員の平均年齢は64歳、組合長などの幹部は70～80歳代の県議員や市議員など地元の有力者である。ICTやアプリの説明をしても全く理解されない。そうした幹

部に十数回も訪問して様々な話をし、最後によくわからないけれどもといわれつつも信頼されて了解をもらう。漁協に寄り添うという姿勢が評価されたのであるが、DXとはいうものの、内実は極めて泥くさい営業であると苦労話を語られた。現在全国約800の漁協中170漁協と契約し、ユーザー登録数は18万人である。

3 事例研究「中小企業の海外展開支援」

「ビジョナリーカンパニーを目指して」

吉田酒造有限公司 代表取締役 吉田由香里氏



...吉田由香里氏から香港との合併事業について紹介された。合併相手は中国でアウトレットモールや免税店の運営などを手がける香港の「シンフォニー・ホールディングス」である。出会いは、県からの突然の一本の電話であった。シン

フォニーの代理人のAさんと会って欲しいというのである。シンフォニーがどのような企業なのか、Aさんがどのような方なのかも全くわからない。香港？信用はどうか？大丈夫なのか？次々に疑問は膨らんだ。

幸いAさんは大手商社出身でまた福井県人会の役員をされ、信頼のおける方だということが分かった。A

さんは商社時代の香港滞在中、パーティーに出席した際、1本5000円の最高級の日本酒を持って

行ったのだが、他の出席者は1本10万円のワインを持ってきていたことで、海外での日本酒の評価がい

かに低いかを話され、香港に輸出していない吉田酒造にコンタクトされたとのことであった。また、「白龍」と

いう銘柄も中国では縁起がよいとされている。今年6月にシンフォニーと吉田酒造で新会社を設立し、1

0月に建築工事に着工、来年3月には市場調査をすることとなっている。しかし、日本酒の製造は国税庁の許可制である。最初、国税局の紹介で酒造組合を通じて県内の酒造場で免許を譲渡してもらえるところはないかを探したが、どこもなかった。そこで、東北の酒造蔵から免許を譲ってもらえることとなった。既に基礎工事は始まっているが、まだ国税局の免許は下りていない。年500石という小さな酒蔵が自社の田んぼで代表的酒米の山田錦を栽培し、米作りから酒造りまで本気の一貫造りのヴィジョンを持って世界の人々の暮らしに潤いと豊かさを届けるビジョナリーカンパニーを目指すと話された。なお、今回、都合によりリモートによる講義となり、講師からは受講者の表情が見えず講義しづらかったのではないかと。

【受講者アンケートより】



午前中開催で、14年目となったが、98%の方が開催時期が「適当である」との回答があった。また、開催時間は100%の方が「適当である」とのことであった。会場については福井商工会議所ビルは前回に引

き続き2回目であるが、97%の方から「適当である」旨の回答があった（会場受講者）。リモート開催の運営についてオンライン受講者に聞いたところ「スムーズな運営であった」が91%を占めた。しかし、「一部で音声聞こえづらかった」との声も頂いた。次回以降の改善点である。

講師：講義内容については、各講義で多少ばらつきはあるものの、概ね7割～9割の方から「大変良い」「良い」の高評価を受けた。特に西村成弘氏の講義は98%の方から非常に高い評価を受けた。

研修に関する希望・要望のフリーアンサーの中においても、今後のテーマとして「最新の経営運用理論」、
「事業者さんの話とその事業者さんを支援した診断士の両者の話」、新幹線敦賀開業を控え「最近の県
内の商店街や街づくりの好事例」、「中小企業のDX推進」などのご意見を頂いた。リモート開催につ
いては、「来年度もオンライン開催をお願いしたい」との要望を頂いた。また、運営面では「会場に時
計が無いので休憩時間はスクリーンに時刻を映す」とよい、「1社だけでは90分は長すぎるのでは
ないか」などの意見を頂いた。頂いた意見を参考に、今後も充実した研修となるよう改善していきたい。